

1:25,000活断層図

雫石盆地西縁－真昼山地東縁断層帯とその周辺

「陸中猿橋」解説書

岡田 真介
(岩手大学)

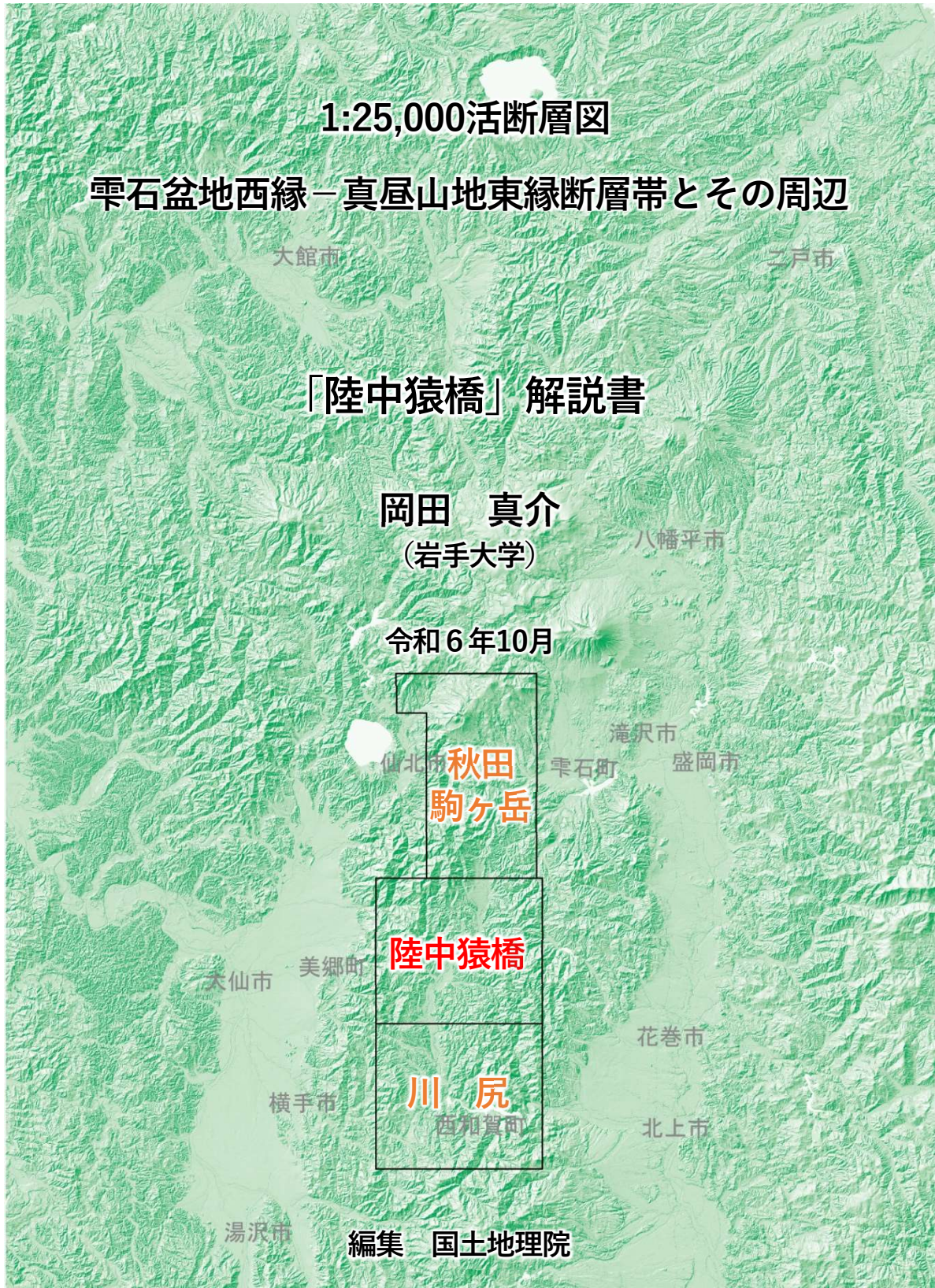
令和6年10月

秋田
駒ヶ岳

陸中猿橋

川尻

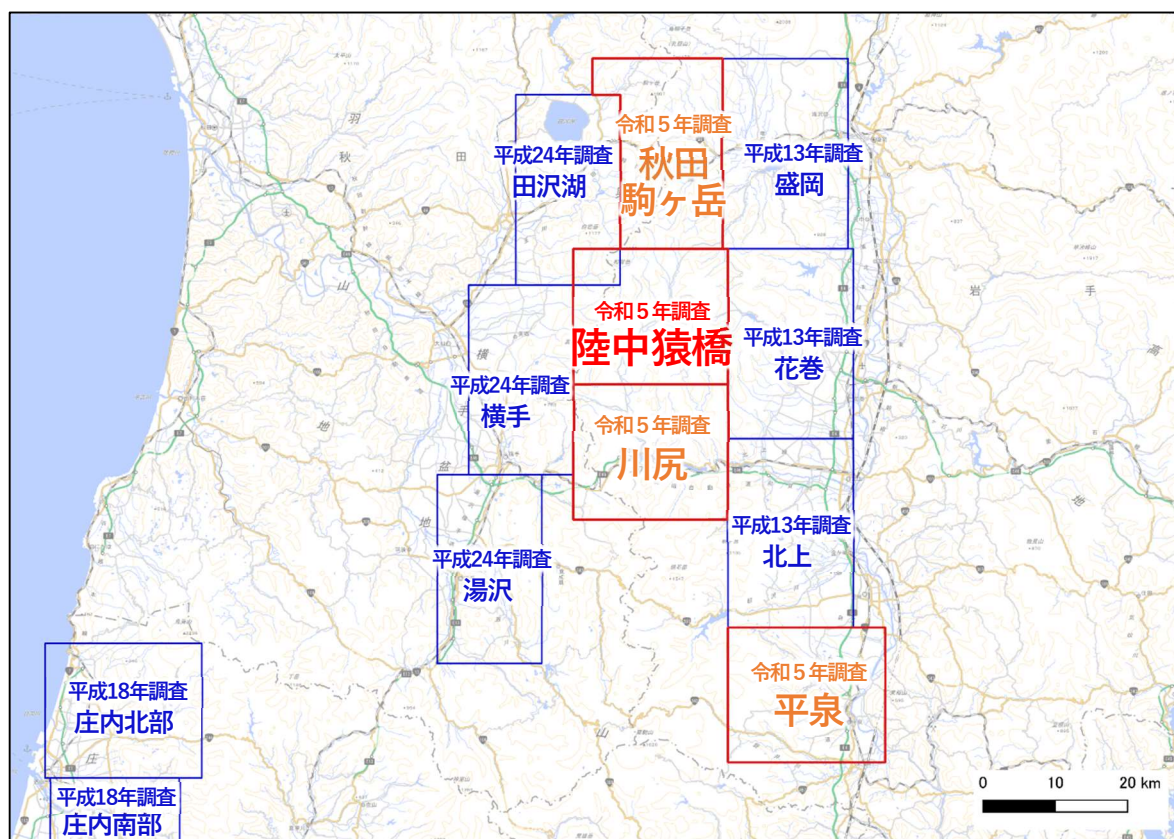
編集 国土地理院



目 次

1:25,000活断層図 雫石盆地西縁－真昼山地東縁断層帯とその周辺「陸中猿橋」解説書

1. 貝沢断層・	2
2. 川舟断層・	3
3. 割倉山断層・	4
引用文献・	5
使用空中写真, 使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等・	6
付図(断層索引図)・	8



令和5年調査図郭 令和4年以前の調査図郭

1:25,000活断層図「陸中猿橋」作成位置図

1:25,000 活断層図 雫石盆地西縁－真昼山地東縁断層帯とその周辺「陸中猿橋」解説書

雫石盆地西縁－真昼山地東縁断層帯は、雫石盆地西縁断層帯と真昼山地東縁断層帯によって構成される（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2005）。

雫石盆地西縁断層帯は、岩手県岩手郡雫石町玄武洞付近から同町鷺宿付近にかけて、約 17 km にわたって北北東－南南西方向に延びる、西側隆起の逆断層である（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2005）。真昼山地東縁断層帯は、雫石町南西部から秋田県平鹿郡山内村（現横手市山内）にかけて、約 38 km にわたって北北東－南南西方向に延びる、西側隆起の逆断層である（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2005）。

本図には、真昼山地東縁断層帯を構成する貝沢断層、川舟断層、及び推定活断層である割倉山断層が記載されている。以下に、各断層の概要と判読した根拠を記載する（下記の断層ごとの番号及び記号は、巻末の付図（断層索引図）に記載した番号及び記号に対応）。

1. 貝沢断層

- ・走向 : ほぼ南北
- ・長さ : 約 2 km
- ・断層種別 : 活断層（一部縦ずれ、活撓曲を伴う）

（※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である）

（1）概要

貝沢断層は、隣接する 1:25,000 活断層図「秋田駒ヶ岳」（杉戸ほか，2024）図郭から西和賀町貝沢付近まではほぼ南北に延びる活断層である。

本図では図郭北端から西和賀町の大荒沢川左岸側までの長さ約 2 km の区間が記載されており、一部に縦ずれの変位、撓曲を伴う。

本断層は、活断層研究会編（1991）及び地震調査研究推進本部地震調査委員会（2005）では「北川舟西方の断層」と記載されているが、本図の基図で使用了電子地形図 25000 には同地名が記されていないため、本図では断層周辺の地名から「貝沢断層」とした。

（2）判断根拠

大荒沢川左岸側の下位段丘面の一部は撓曲変形を伴っており、断層の西側では、断層運動により生じた相対的に標高の高い中位面が分布することから、西側を隆起させる逆断層であると判断した。

2. 川舟断層^{かわふね}

- ・ 走向 : 北北東－南南西
- ・ 長さ : 約 17 km
- ・ 断層種別 : 活断層（一部縦ずれ，活撓曲，傾動を伴う），推定活断層，地震断層

(1) 概要

川舟断層は，西和賀町の^{かますぎわ}沢山東方から西和賀町沢内前郷付近まで北北東－南南西方向に延びる，長さ約 17 km の活断層である．縦ずれの変位を主体とし，一部では活撓曲，傾動を伴う．南端部では，平行して延びる数条の推定活断層を含む．

(2) 判断根拠

本断層の主な地点ごとの判断根拠は次の通りである．

2a：北西から南東に流れる大荒沢川の両岸には，下位段丘面及び中位段丘面が広く分布している．大局的にこれらの段丘面は，東もしくは南東に向かって緩やかに傾斜しており，その段丘面上には，谷地川に流れ込む支流によって浅い谷が刻まれている．しかしながら，図中に西向きの傾動として示した部分においては，それらの地形面がほぼ水平もしくは西にわずかに傾いているように見える．北北西から南に向かって流れる谷地川の侵食や堆積作用によって，活断層の位置は不明であるものの，断層運動による上盤側の変形（傾動）と判断した．この変形の南方延長部は，大荒沢川による侵食や堆積作用によって断層変位地形の連続は不明であるものの，断層の走向から考えて，後述の 2b の活断層線に連続する可能性がある．

2b：大荒沢川と横川に挟まれた地域では，残丘状に取り残された中位段丘面が存在し，その範囲に撓曲変形を伴っていることから，それらの南東側に位置やや不明瞭の活断層を認定した．

2c：この区間の北端部（大荒沢川の右岸）では，中位段丘面に撓曲変形を伴っている．また，中央部付近で中位段丘面を切るような変位地形が確認できることから，活断層と認定した．

2d：この区間では，1896 年の陸羽地震の際に生じた地表地震断層におおよそ沿って，活断層を認定した．陸羽地震時の川舟断層の垂直変位量は，西側隆起で最大 2 m（松田ほか，1980）とされている．西和賀町沢内字若畑付近では，沖積低地と下位段丘面の間に明瞭な低断層崖が連続し，その比高は 2 m をゆうに超えるため，累積性も示唆される．高下川付近では，右岸側には明瞭な低断層崖，左岸側にはわずかに撓曲を伴った低断層崖が連続する．さらに，和賀川の沢内付近左岸側では，上盤側に撓曲を伴った低断層崖が確認でき，右岸側では低位段丘面に変位を確認した．

松田ほか(1980)では、山崎(1896)をはじめとした報告と現地調査を基にして1896年の陸羽地震に伴って生じた地表地震断層の分布をまとめているが、今回の調査で認定した活断層線とは、わずかに一致しない部分もある。しかしながら、山崎(1896)に記載される地図が40万分の1であることや、その後の松田ほか(1980)に示された図も2万5千分の1の地形図を基図としていることから、本図の活断層線と地表断層位置は、ほぼ同一のものを示していると考えられる。なお、本図に示す1896年の陸羽地震の地震断層(黒点線)は、松田ほか(1980)の位置を忠実にプロットした。

2e: この区間では、区間の両端付近に、下位段丘面と中位段丘面との間に10~20 mの比高が存在する。また、区間中央部の西和賀町沢内泉沢付近では中位段丘面が南東に向かって撓曲していることから、活断層と認定した。

2f: この区間では、主に北西から南東方向に広がる沖積錐と山地との境界に沿って活断層が分布する。区間の南西と北端付近では、下位段丘面を変位・変形させている。

2g: この区間では、西和賀町沢内前郷付近から南西に向かって、下位段丘面と中位段丘面の間には直線的な崖地形が連続し、中位段丘面の北西側に沿って傾斜変換線が連続する。しかしながら、活動時期を示す地形面の変位が確認できないこと、及び上述の2a~2fの活断層の一般走向からも外れることから、推定活断層とした。

3. ^{わりくらやま}割倉山断層

- ・走向 : 北東-南西
- ・長さ : 約0.5 km
- ・断層種別 : 推定活断層

(※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である)

(1) 概要

割倉山断層は、西和賀町の本内川^{ほんないかわ}左岸側から1:25,000活断層図「川尻」(廣内ほか, 2024)図郭内、横手市山内南郷^{さんないなんごう}付近まで南北方向、ないし北北東-南南西方向に延びる推定活断層である。

本図では本内川左岸、図郭南端までの北東-南西方向に延びる長さ約0.5 kmの区間が記載されている。

(2) 判断根拠

川尻図郭内の本内川の左岸側には、鞍部地形が存在し、その北東側の本図郭内に直線的な崖が連続する。西側隆起の活断層が示唆されるが、活動時期を示す地形面の変位が確認できないことから、推定活断層とした。

(岩手大学准教授 岡田 真介)

引用文献

- 地震調査研究推進本部地震調査委員会 2005. 雫石盆地西縁－真昼山地東縁断層帯の長期評価について. https://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/14_shizukuishi_mahiru.pdf (最終閲覧日：2024年2月10日)
- 杉戸信彦・石山達也・岡田真介・中埜貴元 2024. 『1:25,000活断層図「秋田駒ヶ岳」』国土地理院.
- 廣内大助・澤 祥・高橋直也・田力正好 2024. 『1:25,000活断層図「川尻」』国土地理院.
- 松田時彦・山崎晴雄・中田 高・今泉俊文 1980. 1896年陸羽地震の地震断層. 地震研究所彙報 55: 795-855.
- 山崎直方 1896. 陸羽地震調査概報. 震災予防調査会報告 11: 50-74.

使用空中写真，使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等

1) 使用空中写真

撮影計画機関（種別）	撮影縮尺	地区番号又はコース番号
米軍（モノクロ）	1/40,000	M5-7-3, M1072, M1080,
国土地理院（カラー）	1/10,000	CTO767
林野庁（モノクロ）	1/20,000	山-243, 山-330, 山-530, 山-556

2) 使用航空レーザ測量データ

国土地理院・岩手県が管理する航空レーザ測量データから 1mDEM を作成して使用.

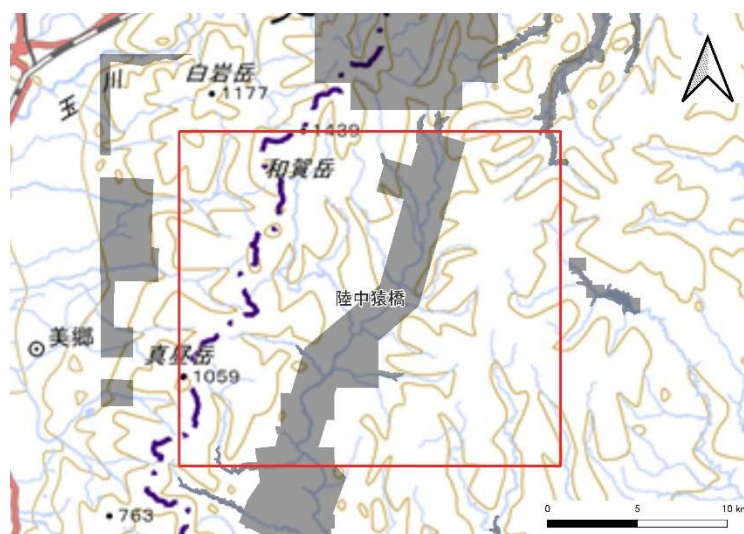


図1 航空レーザ測量データ使用範囲（グレー色塗りつぶし部：データ使用部，赤枠：図郭）
塗りつぶし部以外は「基盤地図情報数値標高モデル（5mDEMないし10mDEM）」を使用した.

3) 全国活断層帯情報整備検討委員会

a. 委員会等の開催

第1回委員会・第1回全体部会（クロスチェック）	令和5年8月23日(水)
	ビジョンセンター東京八重洲
地域部会（クロスチェック）	令和5年11月23日(木)
	イオンコンパス東京八重洲会議室
第2回委員会・第2回全体部会（クロスチェック）	令和5年12月22日(金)
	ビジョンセンター東京八重洲

b. 雫石盆地西縁－真昼山地東縁断層帯とその周辺「陸中猿橋」の作成委員（令和5年度）

図 名	氏 名	所 属
陸中猿橋	○ 岡田 真介	岩手大学准教授
	岩佐 佳哉	大分大学助教
	楮原 京子	山口大学准教授
	立石 良	富山大学准教授

○印は、全体のとりまとめを担当した委員，その他の委員は五十音順。

4) 連絡先

国土地理院応用地理部地理情報処理課
〒305－0811 茨城県つくば市北郷1 番
電話：029（864）1111（代表）

5) 引用する場合の記載例

a. 図を引用する場合

岡田真介・岩佐佳哉・楮原京子・立石 良（2024）：1:25,000 活断層図「陸中猿橋」．国土地理院．

b. 解説書を引用する場合

岡田真介（2024）：1:25,000 活断層図 雫石盆地西縁－真昼山地東縁断層帯とその周辺「陸中猿橋」解説書．国土地理院． 8 p.

【付図（断層索引図）】

